

土木学会

選定映画報告

(9)

視聴覚教育委員会

1. 第15回選定映画審査会報告

日時：昭和47年5月13日(土) 14.00~16.30

上映本数：4本

審査の結果、次の1編が選定された。

2. 選定作品

軟弱地盤に挑む

(カラー・16mm・スタンダード・28分)

企画：戸田建設(株)・大木建設(株)共同企業体

製作：(株)日本映画新社

製作意図

軟弱地盤層における地盤安定処理を主体とした土木工事の記録である。

内容梗概

千葉県北部の地形を特徴づけている印旛沼。その東から南の一带に発達した台地。台地と谷が入り乱れるこの地域に「東関東自動車道新空港線」がつくられる。谷の部分に発達した水田。この地層は、腐植木や、有機質粘土などが堆積した、いわ

ゆる軟弱地盤である。この広い軟弱地盤層の上にまたがってつくられる佐倉インターチェンジにおけるバットレーン工法。サンドコンパクションの採用。ドレーン効果のための地中に立てる砂の柱を、化学繊維の袋に詰めて行ない、確実な砂柱を密度濃く配置することによって、地盤の排水効果をあげる。困難を予想された軟弱地盤安定処理工事は、能率的に終了することができた。

下総台地を貫いてつくられた「東関東自動車道新空港線」佐倉インターチェンジにおける軟弱地盤処理工事を紹介したフィルムである。安定工法として砂の柱を化学繊維の袋に詰めて地盤の排水を行なうバットレーン工法と、砂の柱を振動力を利用して、きわめて太く強い砂柱とするサンドコンパクションパイル工法の二つをあげている。これらの工法は、実写と合わせてイラストレーションによって、とても理解しやすい。しかし、土質試験の場合を多く写しながら、試験結果がどのように工法に利用されたか、はっきりしないのは残念である。

また、この軟弱地盤の排水後の盛土工事における施工速度の重要さは、軟弱地盤における盛土工事のポイントであることがよく理解され、これを決定するための動態観測の状況もうかがえる、すぐれた映画である。技術者用のPR映画および学校教材映画として利用されることをすすめたい。

追記 今回の審査会において道路舗装材をあつかった「甦える道路」というイラストをまじえた非常にユニークな作品があったが、残念ながら選定にはならなかったが、一見の価値ある作品であった。

上記の映画を利用されたい方は下記へお問合せ下さい。

(株)日本映画新社

東京都品川区上大崎2の10の17 03(442)7251

「土木学会選定映画」応募作品募集について

土木学会では、土木工学に関する広い知識を効率よく教育または一般にPRするため、関係官公庁、地方公共団体、業界等で数多く作られている土木工学に関連する映画が有効かつ適切に利用されるよう「土木学会選定映画」制度を設けておりますので、ふるって御応募下さいますようお願い申し上げます。

応募方法は特にむずかしい規程はございません。広い意味での土木工学に関する映画を企画または製作されたものであれば、どなたでも応募できます。

応募ご希望の方は下記あて申込書をご請求下さい。折返し申込用紙をお送り致します。

記

申込書請求先：〒160 東京都新宿区四谷一丁目 TEL 03(351)5130

社団法人 土木学会 視聴覚教育委員会 あて